ゴビウスニュースレター

ISSN 1349－1709

しまねっ湖



クロベンケイガニ　*Chiromantes dehaani*

CONTENTS

特集・春の特別展……2～3
ゴビウスのなかまたち……4
しまねの水辺紀行／シャッターチャンス！……5
生きものガイド……6
こらまたなんだら！／表紙の生きもの……7
観察会報告／インフォメーション……8

No.64
2019. Spring

島根県立宍道湖自然館ゴビウス　第41回特別展

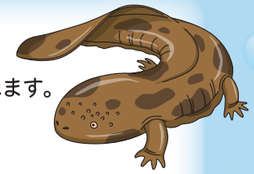
Dr.ゴビィの 生きもの健康診断所



開催期間　2019/3/13(水)～5/6(月)

Dr.ゴビィのもとに集まった生きものたち。心配事や悩みを抱えた生きもの、成長や健康状態が知りたい生きものなど、それぞれ体のようすが気になるみたい。どんな生きものたちの健康診断が行われているのかのぞいてみよう！

オオサンショウウオの成長記録



国の特別天然記念物であるオオサンショウウオは年に1回、体の大きさや重さを測っています。
また、ゴビウスでは大きさを測るだけではなく、体にキズがないかなどの健康状態も一緒に調べます。

◎オオサンショウウオの身体測定

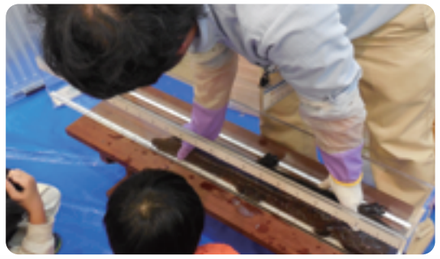
①マイクロチップリーダーで番号を読みとり、個体識別をするよ。



②体のようすを調べるよ。
前あし、後ろあし、尾などにキズがないか調べるよ。また、総排出口（おしりのあな）のかたちも確認。繁殖期のオスは総排出口の周囲が盛り上がるよ！



③体の大きさ（全長）を測るよ。



④体の重さ（体重）を測るよ。





おさかなカウンセリング

なまえ　マツカサウオ

大きく硬いウロコがまつぼっくりに似ていることから松笠魚とよばれます。外敵から身を守るために、このウロコにはトゲもついています。

署名　Dr.ゴビィ

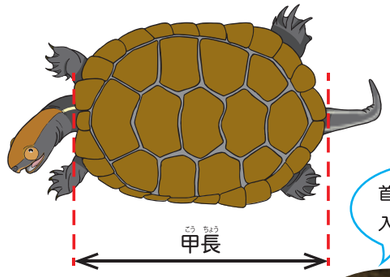
元気なときこそ健康チェック！
Dr.ゴビィにしっかりみてもらおう！

ドキドキ健康診断

身体測定

春になると必ず学校で行われる身体測定。水族館の生きものたちも、成長や健康状態を知るために身体測定を行うことがあります。
生きものの正しい測り方を知り、生きものたちの大きさを調べてみましょう!!

◎カメの測り方



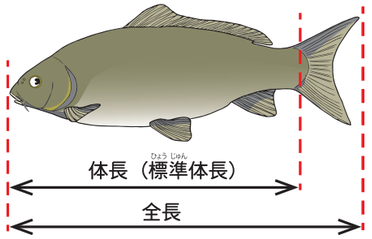
首の長さは入らないの!?



ジーベンロックナガクビガメ

カメは首やしっぽを伸ばしたり、引っこめたりできるので、伸び縮みしない甲らを測るよ！

◎魚の測り方



金魚界のトップを目指すよ！

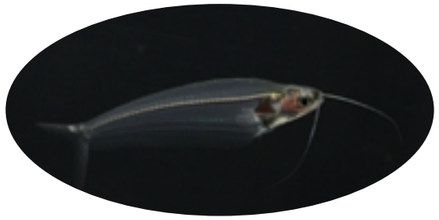


ジャンボ獅子頭

魚はひれの先端がすり切れて短くなることがあるよ！そのため、ひれとは関係ない体長を測るよ！

レントゲン検査!?

レントゲン写真を撮らなくてもホネまで丸見えな、半透明な生きものたちが集合しているよ！！スケスケな生きものたちのホネの動きに注目！！



トランスルーセントグラスキャット

タイやマレーシアの川にくらすナマズのなかまで、大きいものでは15センチ以上にもなります。体は頭部をのぞいて半透明で、上あごの先端から長いひげが2本伸びています。ナマズのように底でじっとしていることは少なく、群れで泳ぎまわって生活します。

署名　Dr.ゴビィ

特別展関連イベントもチェックしよう!!

Dr.ゴビィをお手伝い！

特別展展示ガイドブック「おさかなカルテ」



特別展を見て、おさかなカルテを完成させよう！

完成したおさかなカルテをみせると、もらえるよ！

オリジナル背くらべポスター



※数に限りがあります。なくなり次第終了いたします。

生きもの診断カード

来館時に受付にてプレゼント！

健康診断中の生きものたちがカードになったよ。

全部で6種類

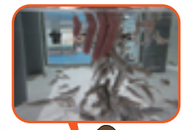


じゃんけんマークで対戦できるよ！家族やお友だちとあそぼう！
※カードはひとり1日1枚です。なくなり次第終了いたします。

GW限定イベント 4/27～5/6

Dr.フィッシュのフィッシュセラピー

「だんだんタッチプール」にドクターフィッシュが登場！



セラピー効果を体験してみよう！



ゴビウスのなかまたち

汽水のなかま ホウライヒメジ

館内のヘルメット水槽で、一際目立つ魚がいます。濃いピンク色の体に、2本の口ひげがチャームポイントのこの魚は、ホウライヒメジといいます。



中層を泳ぐホウライヒメジ

宍道湖や中海のような汽水域では見られませんが、海の岩礁域やサンゴ礁域などに生息し、エビやカニなどを食べています。ホウライヒメジはゴビウス初展示で、これまで飼育スタッフもあまり見かけたことがありませんでした。現在展示しているのは、2018年8月にゴビウス周辺の日本海で捕獲され、漁師さんのご厚意により寄贈していただきました。

ホウライヒメジを観察していると、底のほうでじっとしていることもあれば、中層を泳いでいたり、大きな岩の上にのっていたり、ひげをのばして器用に動かしていたりと、さまざまな姿を見せてくれます。エサやりのために水槽をのぞくと、水面まで寄ってきます。エサのオキアミを与えると、他の魚に横取りされないようにひげを使って一生懸命エサをさがして食べます。普段は、のんびりしているように見えるホウライヒメジですが、エサを食べているときはとても素早く活発です。みなさんもホウライヒメジの体の形や色、動きなどをじっくり観察してみてください。きっと、ユニークで愛嬌のある姿を見せてくれると思います。



ひげをのばしているようす

（高橋由也）

淡水のなかま タカハヤ

河川上流域の冷たい水を好むタカハヤという魚は、何のなかまか知っていますか？「上流でくらすので、サケのなかまだ！」と思うかもしれませんが、じつはコイのなかまです。日本に生息するコイのなかまの中で、もっとも上流域にくらす種類のひとつです。しかし、流れの速い中で、ずっと泳ぎ続けるのは苦手なため、淵や岸近くの流れがゆるやかな場所でよく見かけます。

タカハヤの特徴は茶褐色の体色と、体表にヌルヌルとした強いぬめりがあることです。この強いぬめりのおかげで、上流域のゴツゴツとした岩場が多い環境の中でも、スレ傷から身を守ることができます。島根県では「ドロバエ」や「ドロンバエ」などの地方名でよばれています。

ゴビウスで展示するタカハヤの1日の動きに注目すると、日中はタカハヤどうし少し間隔をあけて水槽全体を泳いでいます。しかし、午後のエサやりの時間になると、ほとんどが水面近くに集まります。この行動から水槽で飼育しているタカハヤは、



タカハヤ

エサの時間を覚えていることが分かります。エサやり後は、底近くに集まり群れますが、中にはエサが少し足りずそのまま水面近くに残っているものもいます。水槽内ならではの行動かもしれませんが、毎日、観察していると魚たちの行動の違いに気がつくことができます。

今回は上流にくらすタカハヤを紹介しましたが、みなさんもゴビウスで展示している身近な淡水魚を観察してみると、今まで気づけなかった新しい発見があるかもしれません。

（森永和希）

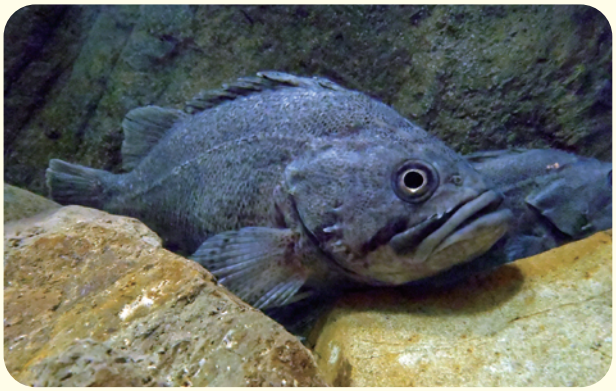
しまねの水辺紀行 55 冬の日本海 根魚クロソイを求めて

日本列島上に等圧線が南北に走る西高東低の気圧配置となると、北寄りの風が吹きつけ、冬の日本海は人の接近を拒むかのように大きな波が海岸に打ち付けます。まさに文字通りの「大荒れ」の日本海です。そんな状況ですので、「釣りは暖かくなる春までお休み」となることが多いのですが、まれに風がなく、釣りに行けそうな日があります。どうしても釣りに行きたくなり、冬の日本海沿岸の生物の状況を確認するため、釣り日和となったある日の夜、釣りに出かけました。

出かけたのは島根半島のとある漁港と磯場。冬の島根半島西部は、ウップルイノリの摘み場となる磯が多く、該当する磯は立ち入りが禁止されます。釣りができるのは、ノリ摘み場となっていない磯か漁港に限られます。ここ数年、寒い時期でも釣れる魚の代表「メバル」釣りにはまっていましたが、今回は全く経験のない「クロソイ」を狙ってみました。川が流れ込むなど淡水の影響があり、クロソイが潜む岩礁域を候補に挙げ、順番に探っていきます。何もアタリがないまま時間だけが過ぎていき、魚が全くいないのでは？と思いながら、最後の場所に着きました。ここは周囲が山に囲まれており、月明かりもありません。街灯も離れており、空には満点の星が瞬いています。そんな中で何投かしたとき、待望のアタリが！残念ながら本命のクロソイではなくカサゴでした。その後、カサゴをもう一匹釣ったところで時間切れ（納竿）となりました。

冬の凛とした空気の中、この日は流れ星のアタリ日で、わずか1時間程度ではっきりとわかる明るい流れ星を3つも見ることができました。「願い事を！」なんてことも考えつかないくらい、美しい光景でした。冬の夜釣りの楽しみがひとつ増えました！

（中野浩史）



これを釣りたい！クロソイ



釣らせてくれてありがとう！カサゴ

シャッターチャンス！

ある日、カスミサンショウウオが体をぐっと伸ばして上を見上げていました。何があるのかなと私も上をのぞいてみましたが、何もありませんでした。普段は上からピンセットでエサをあげています。上の方で何か動くものを見つけてエサと見間違えたのかもしれません。

（梅原里歩）





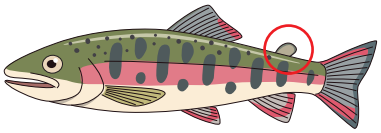
シラウオのひみつ

なまえ：シラウオ
生息地：四国南部～九州南部をのぞく、日本各地の河口から周辺の沿岸域

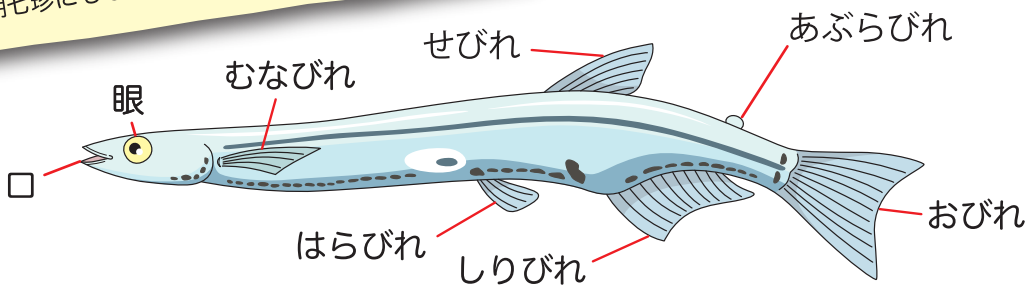
宍道湖から中海にかけてくらしています。代表的な汽水魚のひとつで、川や海を利用しながらも一生を汽水域ですごします。宍道湖七珍にもなっています。

その1 あぶらびれ

シラウオは、サケ目というグループにわけられているよ。サケ目の魚たちには、このあぶらびれがあるんだ。



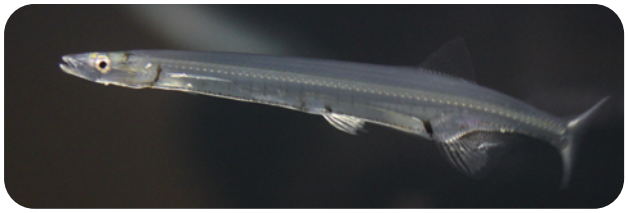
ヤマメ



その2 体は透明

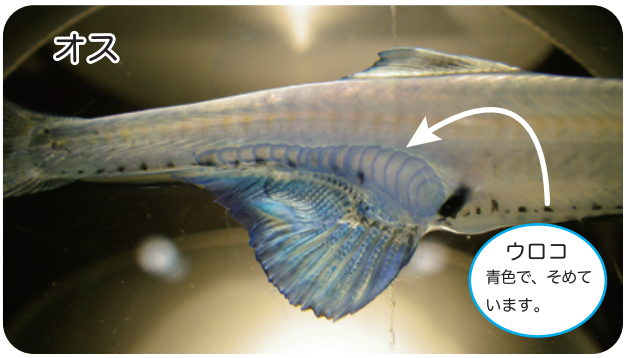


白い体をしているからシラウオ（白魚）という名まえがついているけど・・・



生きている時は、半透明のガラスのような体をしているよ。食べたエサも、透けて見えるよ。

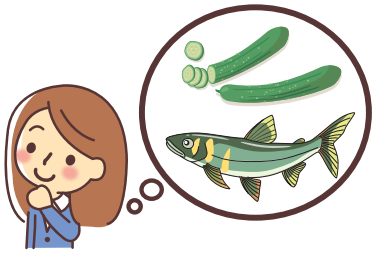
その3 ほとんどウロコのない体！



シラウオの体にはほとんどウロコがないよ。あるのは、オスのしりびれの付け根にだけ。産卵をする時に、役にたつといわれているよ。

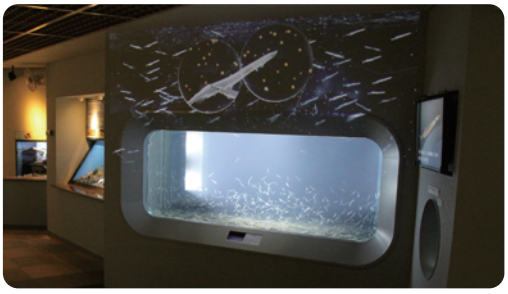
その4 シラウオのにおい！

シラウオの匂いをかいでみると、キュウリやスイカのような匂いがするよ。アユやワカサギなど、シラウオのなかまからも、同じような匂いがするよ。



2019年1月シラウオ水槽が完成！

シラウオのきれいな姿を１年を通して見てもらうため、新しい水槽ができたよ！光をあびてシラウオがキラキラと輝きながら、元気に泳いでいるよ。



こらまたなんだら！ 其の十八　シジミどこから？

毎年、春になると、出雲平野の各地で川掃除がおこなわれます。川岸のゴミを拾ったり、繁茂しすぎている水草を刈り取ったりするほか、町内の防火用水槽なども、きれいに掃除します。私のすむ地域でも、コンクリート製の大きな防火用水槽を空にして、壁に生えた藻や、底にたまった泥を洗い流すのですが、今回、水を抜いたところ、底から大きさ2～3センチのシジミがゴロゴロと出て来ました。前年の春にも、完全に水を抜いてきれいに掃除したはずなのに、なぜ？どこから？？不思議なシジミの出現にあれこれと想像が膨らみました。

調べてみると、このシジミは、宍道湖でとれるヤマトシジミではなく、タイワンシジミという外来種であることがわかりました。タイワンシジミは、文字通り大陸原産のシジミで、淡水域にすみ、水の汚れに強く、成長が速いという特徴を持っています。また、ヤマトシジミのように卵を産むのではなく、親貝が、直接、小さな稚貝を水中に放出する方法で増えることも知られています。こうした特徴は、日本の淡水域に、もともとすんでいるマシジミとよく似ているため、マシジミがすむ場所に、タイワンシジミが入り込むと、競合する心配が出てきます。このため、国は「生態系被害防止外来種リスト（我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト）」に掲載し、注意を呼びかけています。



タイワンシジミ

タイワンシジミが、一体どうやって防火用水槽に入り込んだのかはわかりませんが、前年の掃除のあと、補給した川の水に、すでに稚貝が混じっていた可能性が高いと考えられます。宍道湖のヤマトシジミがこのサイズになるまで3年ほどかかることを考えると、たった1年で同じ大きさになるタイワンシジミの成長スピードは驚異的です。他県では、タイワンシジミが入ってきたことによって、もともとすんでいたマシジミが淘汰されたり、交雑種が誕生したりといった現象も起こっているようです。「いつの間にかそこにいる」外来種は、静かな脅威です。

（中畑勝見）

表紙の生きもの　クロベンケイガニ　*Chiromantes dehaani*

河口付近の地面に巣穴をつくり、おもに陸上で生活するカニです。島根県東部では、宍道湖や中海、神西湖などの汽水域でもよく見かけます。

夏のジメジメとした暑い夜、宍道湖の湖岸に行くと無数のクロベンケイガニの姿を観察できます。日の出とともにヨシ原や石の下に掘った巣穴に隠れ、日中はその姿をあまり見かけることはありません。

ゴビウス園内を流れる小川でも、いつからかクロベンケイガニの姿を見るようになりました。宍道湖から歩いてやってきたようです。冬の時期は巣穴の中でじっとしていますが、春になり暖かくなってくるとまた活動をはじめます。

（桑原友春）



小川でみつけたクロベンケイガニ

生きもの観察会報告 ～「もっと知ろう！カメ・ヘビ・トカゲ」編～

2月の生きもの観察会は、は虫類（カメ・ヘビ・トカゲ）をテーマに行いました。初めには虫類の解説をした後、実際にカメやヘビとのふれあい体験と観察をしました。また、エサやりを行い、参加者のみなさんと一緒にエサを食べる瞬間を間近で観察しました。最後にヘビの脱皮がらを使ったしおり作りにも挑戦しました。観察会を通して、普段なかなか接する機会のないは虫類を、身近に感じてもらえたらうれしいです。

（淺津紳司）



ゴビウス生きもの観察会に参加しませんか？

ゴビウスでは毎月１回、生きものをテーマに観察会を開催しているよ♪



5/26 日曜日 10:00～11:30　受付開始 5/12

宍道湖生きもの探検隊！

宍道湖にはどんな生きものがいるのかな？探検隊に参加して、宍道湖にくらす生きものや環境について楽しく学ぼう！



6/23 日曜日 10:00～11:30　受付開始 6/9

実験!観察!メダカのかがく

メダカをさがしに出かけてみよう！つかまえたメダカで実験もするよ。今まで知らなかったメダカのひみつが見つかるかも。



7/28 日曜日 10:00～11:30　受付開始 7/14

水生昆虫の王者！タガメ

日本最大の水生昆虫タガメの姿は迫力満点！卵や幼虫など、いつもは見ることのできない姿も観察するよ。



定員 申込先着30名

対象 どなたでも（小学生以下は保護者の参加も必要）

お問い合わせお申し込みは　開催２週間前から電話にてお申し込みください。

TEL 0853-63-7100

※定員になり次第締め切りとさせていただきます。
※各観察会についての詳細は各観察会チラシでご確認ください。
※観察会情報はホームページでもご覧いただけます。

生きもの情報も発信中だよ！ http://www.gobius.jp/

3回参加でプレゼント！

ゴビウス・グリーンパーク・尺の内公園共通

観察会チャレンジカード

ゴビウス・グリーンパーク・尺の内公園の観察会に参加するとスタンプを押します！スタンプが３つたまるとオリジナルノートをプレゼントします。

観察会の組み合わせは自由！



●GW期間中のお知らせ●
4月24日(水)～5月6日(月)まで休まず開館！

児童福祉週間 5月5日(日)～5月11日(土)まで小中学生入館無料
ただし、5月7日(火)は休館日です。

ご来館案内

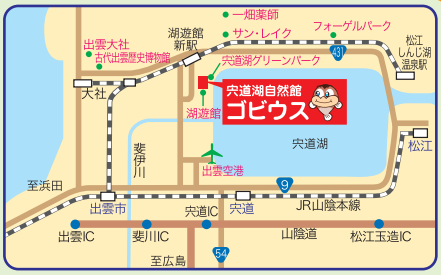


●入館料／大　人…500円（400円）
小中高生…200円（160円）
※（　）内は団体20名様以上の料金

●年間パスポート／大　人… 1,400円
小中高生……500円
ご家族で同時にご購入いただくと２割引になります。
大人 1,120 円、小中高生 400 円。
※割引の適用は同居のご家族に限ります。他の割引との併用不可。

●開館時間／9：30～17：00（最終入館は16：30）

●休館日／火曜日、年末（12月28日～12月31日）
※火曜日が祝日の場合は、その翌平日が休館日となります。



●一畑電車湖遊館新駅より徒歩10分 ●出雲空港より車で10分
●山陰道宍道インターより車で15分

●駐車場／100台（無料・トイレ完備）

ゴビウスニュースレターしまねっ湖　No.64
発行日／平成 31 年 4 月10 日
発　行／島根県立宍道湖自然館ゴビウス（管理運営：ホシザキグリーン財団）
〒691-0076　島根県出雲市園町 1659-5
TEL 0853-63-7100　FAX 0853-63-7101
URL www.gobius.jp/　E-mail gobius@gobius.jp

■動物取扱業に関する表示
氏名または名称：公益財団法人ホシザキグリーン財団
事業所の名称：島根県立宍道湖自然館
動物取扱業の種別：展示
登録番号：第073102040号
登録年月日：平成19年5月17日
登録有効期限：平成34年5月16日
取扱責任者：中野浩史

R80 古紙パルプ配合率80%再生紙を使用
本誌は地球環境に優しい植物油インキを使用しております。
VEGETABLE OIL INK
植物油インキは、大気汚染の原因となるVOC（揮発性有機溶剤）の削減および再生紙処理の優位性が高い成分です。